

赤い賞

大賞受賞者 (5人、順列は北から)

- 清水三郎氏 (千葉) 清水三郎病院院長
- 安福嘉則氏 (岐阜) 関市国民健康保険河戸診療所医師
- 亀井克典氏 (愛知) かわね病院在宅ケアセンター長
- 武田以知郎氏 (奈良) 明日香村国民健康保険診療所管理者
- 北野明子氏 (福岡) ききたの小児科医院院長



清水三郎氏
清水三郎病院院長

今年(2024年)の令和6年度赤い賞大賞受賞者5名は、地域医療に多大な貢献をされた方々です。日本医師会では、地域医療の発展と、国民の健康増進に貢献された方々を表彰しています。今年の大賞受賞者5名は、それぞれが地域医療に多大な貢献をされた方々です。日本医師会では、地域医療の発展と、国民の健康増進に貢献された方々を表彰しています。



安福嘉則氏
岐阜県関市河戸地区(旧河戸村) 村長

「赤い賞」を受賞された方々の功績は、地域医療の発展と、国民の健康増進に貢献された方々です。日本医師会では、地域医療の発展と、国民の健康増進に貢献された方々を表彰しています。



亀井克典氏
かわね病院在宅ケアセンター長

「赤い賞」を受賞された方々の功績は、地域医療の発展と、国民の健康増進に貢献された方々です。日本医師会では、地域医療の発展と、国民の健康増進に貢献された方々を表彰しています。



武田以知郎氏
明日香村国民健康保険診療所管理者

「赤い賞」を受賞された方々の功績は、地域医療の発展と、国民の健康増進に貢献された方々です。日本医師会では、地域医療の発展と、国民の健康増進に貢献された方々を表彰しています。

人とのつながりを要に

地域で献身的な医療に取り組む医師を顕彰する第12回「日本医師会 赤い賞大賞」(主催・日本医師会、産経新聞社、特別協賛・太陽生命保険)の表彰式が1日、東京都内で行われる。大賞を受賞した5人の医師の日々の活動と功労賞受賞者を紹介する。



しみず・さぶろう 清水三郎病院院長。昭和14年、千葉県一宮町生まれ。84歳。日本医科大学卒業後、千葉大学附属病院で産婦人科医師として勤務。千葉県立総合医療センターを経て、56年に同院で救急科を開設。夜間救急診療を推進するなど、地域の救急医療体制の維持に尽力する。

救急医療体制の立て直しへ力注ぐ

清水三郎氏は、救急医療体制の立て直しに力注いでいる。救急医療体制の立て直しに力注いでいる。救急医療体制の立て直しに力注いでいる。救急医療体制の立て直しに力注いでいる。



やすふく・よしのり 関市国民健康保険河戸診療所医師。昭和22年、岐阜県大垣市生まれ。76歳。岐阜大学医学部卒業。同院立多治見病院、岐阜大学医学部附属病院を経て、57年～令和4年の40年間に、河戸診療所の所長を務める。学校保健医としても取り組み、地域の食生活改善にも取り組む。現在も支援医師として診療を続ける。

「無我夢中」住民と助け合い42年間

安福嘉則氏は、42年間「無我夢中」で住民と助け合っている。安福嘉則氏は、42年間「無我夢中」で住民と助け合っている。安福嘉則氏は、42年間「無我夢中」で住民と助け合っている。

【推薦方法と推薦基準】
【推薦方法】本賞受賞にふさわしいと思われる医師1人を各都道府県医師会が推薦
【推薦基準】病を診るだけでなく、地域に根付き、その地域のありかたについて、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。日本医師会の会員および都道府県医師会の会員で現役の医師(ただし、現職の日本医師会・都道府県医師会役員は除く)。

「日本医師会 赤い賞大賞」
産経新聞社が主催し、地域に貢献された医師を顕彰する。今年も多くの医師が応募し、大賞・功労賞の受賞者を決定した。今年は大賞・功労賞の受賞者を決定した。

平成24年に創設された、全国の都道府県医師会から推薦された候補者から、毎年1回、大賞・功労賞の受賞者を決定した。今年は大賞・功労賞の受賞者を決定した。

元気!長生き! 太陽生命

保険で、
認知症を
予防!?



ひまわり認知症 予防 保険

※当広告では選択額と認知症診断保険に生存給付金特別を付加したプラン「ひまわり認知症予防保険」としてご案内しています。

【太陽生命資料請求ダイヤル】 営業時間:月~日 9時~17時

0120-04-22-33 (通話料)



太陽生命 T&D 保険グループ

